

病変はどこ？①

[執筆]

賀門克典(がん研有明病院画像診断部副部長)



肺癌の病変はどこにありますか？

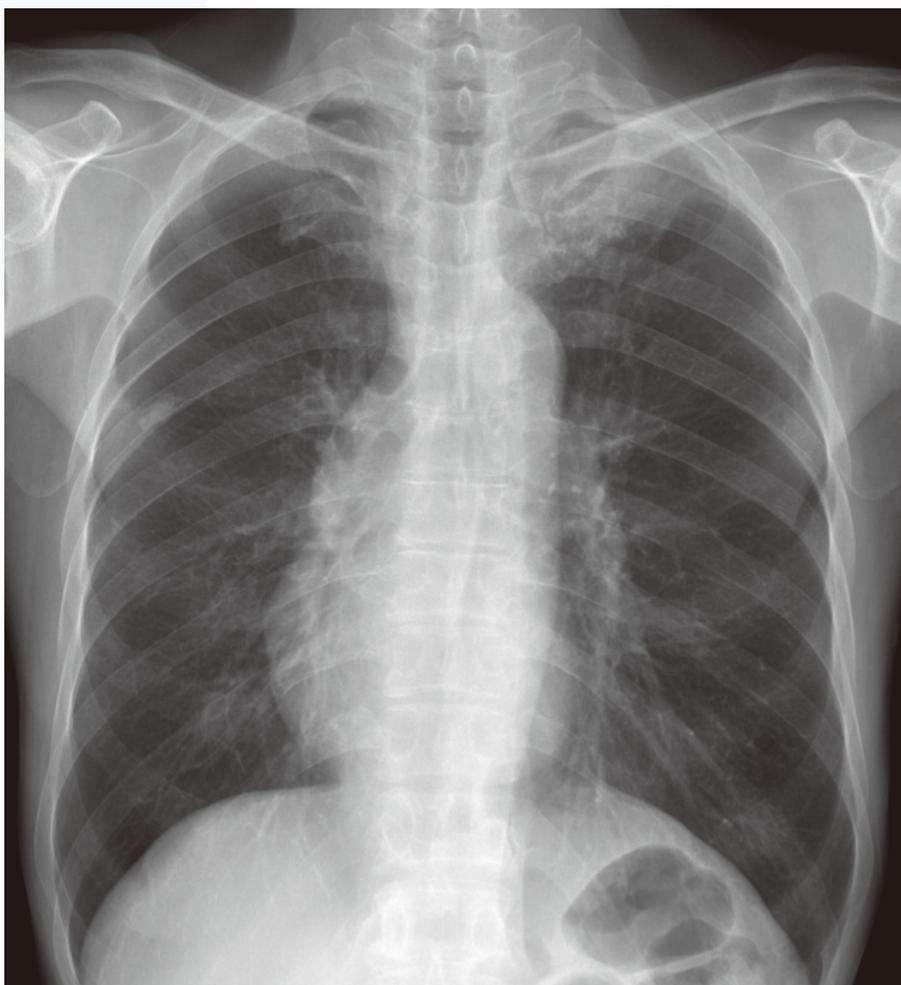


図1 胸部単純X線撮影PA像

60代男性 主訴：左胸痛

A

肺癌はここにあります！

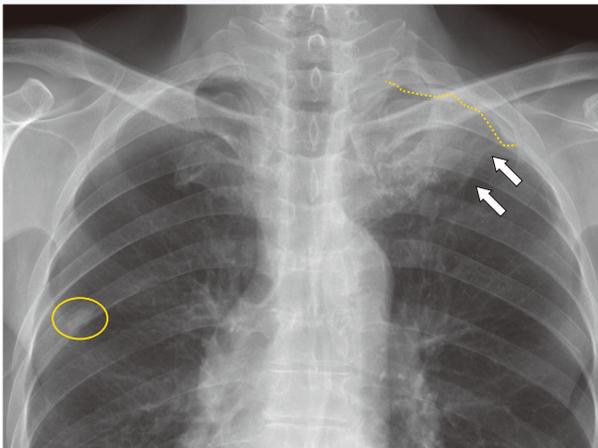


図2 胸部単純X線撮影PA像(拡大)

所見

肺尖部濃度の左右差, 不整なapical cap様陰影(点線), 不明瞭な腫瘍影下縁(→)を認める

右第6肋骨後部外側にも結節影が重なって認められる(実線)

読影のポイント

肺尖部肺癌の検出には左右差を慎重に比べることが重要である。肺尖部結節は境界が不明瞭なことが多く, 濃度の左右差に注意することが重要である。apical capの左右差がある場合, 注意を要する

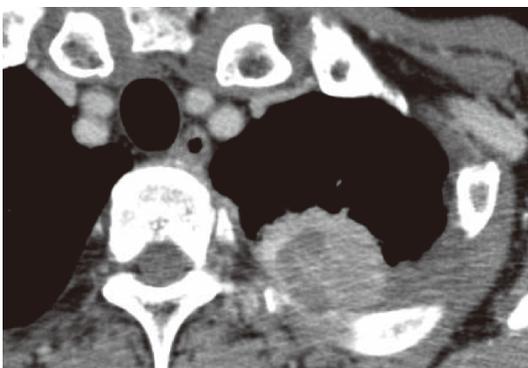


図3 胸部造影CT縦隔条件

左肺上区S¹⁺²に胸壁浸潤を伴う腫瘍を認める。放射線治療後に切除が行われ, 扁平上皮癌の結果であった。胸壁浸潤することで腫瘍が肺と接線形成する範囲が小さくなり, 腫瘍の認識が難しくなる

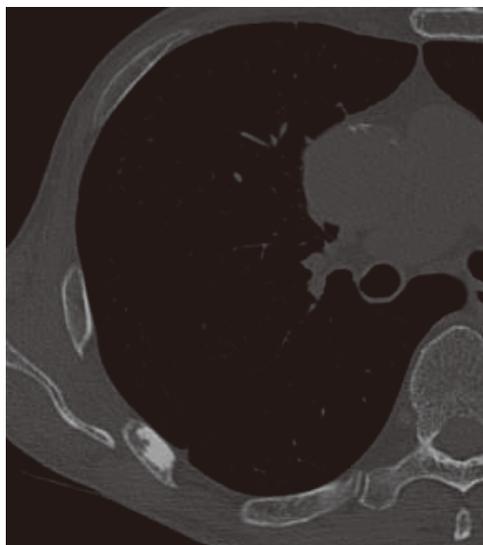


図4 胸部CT骨条件

右第6肋骨後部外側に重なる結節影は肋骨の骨島である。肋骨の走行に沿うような形態と陰影のサイズのわりに高吸収を示すので, 単純撮影のみでもある程度の骨病変との診断は可能である

最終診断

肺扁平上皮癌 pT3N0M0, II B期

良性 or 悪性？①

[執筆]

負門克典 (がん研有明病院画像診断部副部長)



この病変は良性(非がん)？
それとも悪性(がん)？

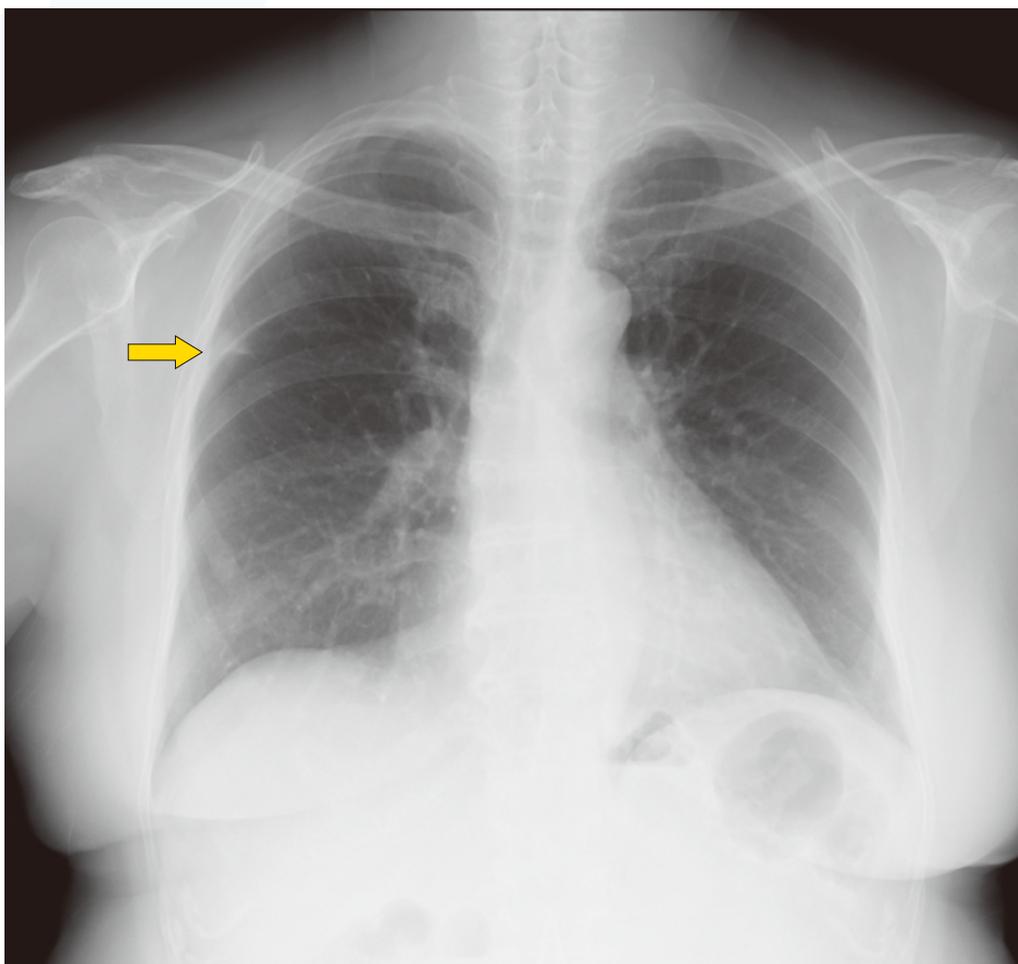


図1 胸部単純X線撮影PA像

60代女性 右乳癌術後経過観察

A 良性(非がん)



図2 胸部単純X線撮影(拡大)

小葉間裂(青点線)上では境界明瞭だが、その他の輪郭は不明瞭な結節影(赤破線)が認められる。肺癌の可能性を否定できないが、特徴的な部位と形態から肺3葉合流部の脂肪や胸水の可能性が考えられる

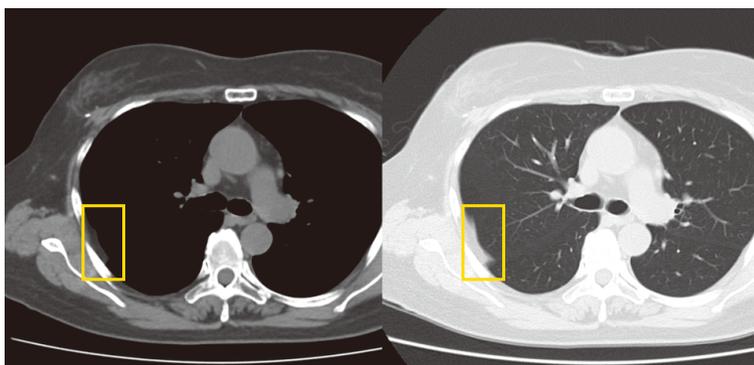


図3 胸部CT縦隔条件・肺野条件

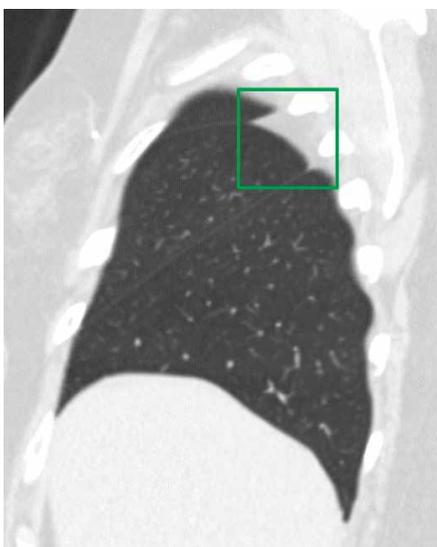


図4 胸部CT矢状断再構成像

肺結節除外のために施行されたCTでは、壁側胸膜下脂肪が3葉合流部にはまり込んで、異常影の原因となっている。3葉合流部には時に壁側胸膜下脂肪や胸水が入り込み、胸部単純X線撮影の異常影を形成する。肺癌の除外はできないのでCTを省くことは難しいが、特徴的な位置から胸部単純X線撮影である程度の診断は可能である

最終診断

壁側胸膜下脂肪による偽病変